Ⅱ．病害虫ミニ情報

水稲の主な病害虫と防除対策について

水稲に発生する主要な病害虫には，いもち病，斑点米カメムシ類，イネツトムシなどがあり，いずれも十分な注意が必要です。

病害虫の主要発生時期及び防除時期を下記に示します。年により発生時期・発生量が変動するので，水田をよく観察して病害虫の発生状況にあわせた効果的な防除を行って下さい。

発生消長と防除の概要

本年の発生状況及び防除対策については，毎月発表される病害虫発生予報等を参照して下さい。

1）いもち病：葉いもちは6月下旬から発生し始め，7月下旬にピークとなる。梅雨明けが遅い場合には病勢が進展し，出穂期に降雨が続いた場合は穂いもちが多くなる。穂いもちの防除は，穂ばらみ末期～穂揃期に行う。粒剤を使用する場合は出穂前に散布する（薬剤によって使用時期が異なるので注意する）。

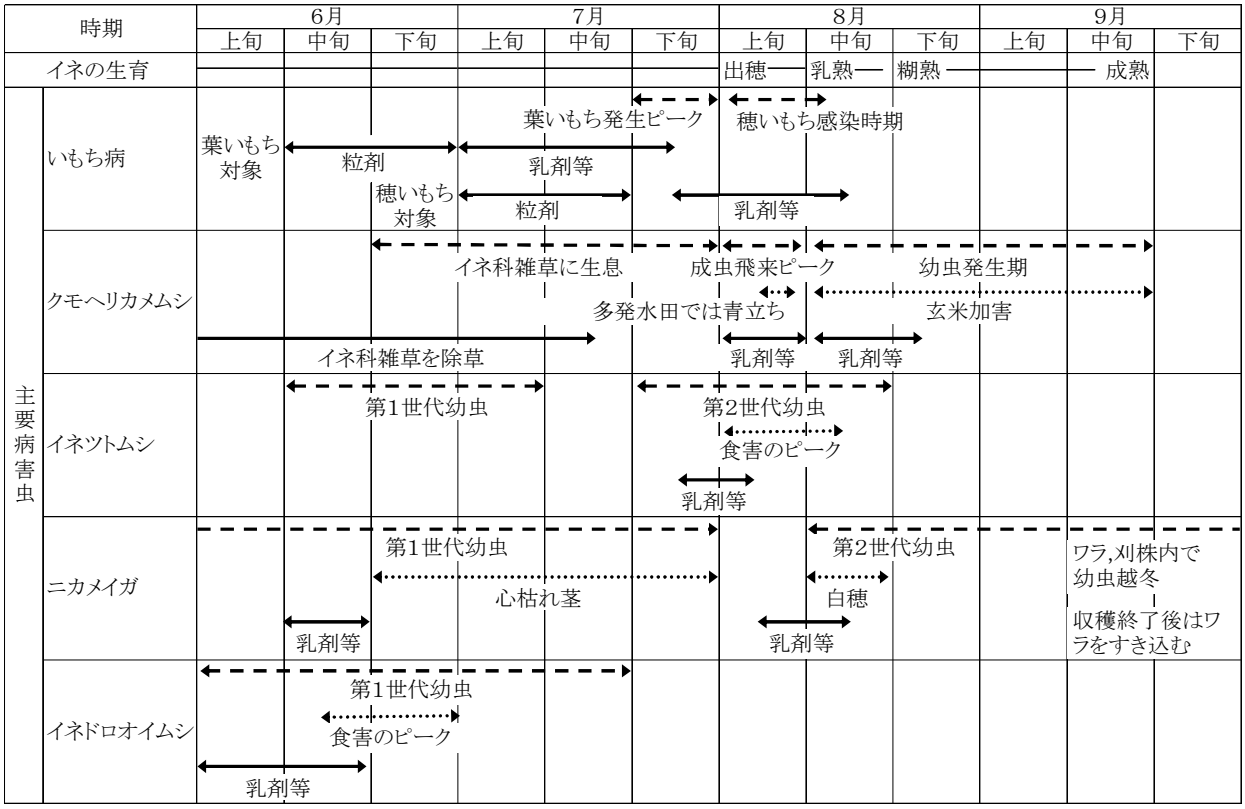
2）斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）：成虫は水田周辺（畦畔含む）のイネ科雑草等からイネの出穂とともに飛来し，穂を加害しながら葉や穂に産卵する。ふ化した幼虫も同様に穂を加害し，加害は収穫期まで続く。防除は成虫が飛来する出穂期～穂揃期及び幼虫が発生する乳熟期～糊熟期に行う。

3）イネツトムシ：幼虫は6月中旬～7月上旬及び7月下旬～8月中旬に発生し，葉を食害する。7月下旬から発生する第2世代幼虫による被害が大きい。防除は7月末～8月はじめに行う。

4）ニカメイガ：第1世代幼虫による被害は心枯れ茎，第2世代幼虫による被害は白穂となって現れる。第2世代幼虫を対象とする防除は，8月上旬～中旬に行う。

5）イネドロオイムシ：成虫は5月上旬から6月にかけて水田へ飛来し，葉に産卵する。幼虫は6月上旬から発生し始め，梅雨明けまで加害する。幼虫の発生が多い場合は防除を行う。

表　水稲において近年問題となっている病害虫の発生と防除時期のめやす（6月以降）



注1）←－－→　:発生消長　←……→ :被害　←――→ :防除
注2)防除時期は平年の発生をもとにしためやすなので，病害虫発生予報を参考に，水田をよく観察して防除を行う。
注3)5月上中旬移植，中生品種の場合。

茨城県病害虫防除所
病害虫発生予報6月号（平成22年）より抜粋